<資料２>

事後評価　審議事業一覧表

番号	県・政令指定都市名	事業名			事業の概要					H42将来推計交通量				主な整備効果	対応方針（案）
		路線名	事業名	評価対象理由	車線数	事業延長（ｋｍ）	事業期間	事業費（前回）（億円）	事業費（今回）（億円）	（前回）（台/日）	（今回）（台/日）	実測交通量（台/日）	(参考)費用便益比		
1	青森県	一般国道4号	七戸バイパス	完了後5年	2/4	5.7	H１～H22	【完成】94.0【暫定】72.0	【暫定】72.0	9,700	9,800	13,400	1.4	【資料3】 ・現道からバイパスへ交通量が約８割転換（Ｐ５） ・死傷事故件数約６割減（Ｐ６） ・現道の大型車交通量が８割減少。通学児童の安全性が向上（Ｐ７） ・新幹線七戸十和田駅へのアクセスが向上し、駅利用者、観光者数が増加傾向（Ｐ８） ・県家畜市場（七戸町）の取引額は増加傾向。七戸町の肉用牛の販売額が約１．２億円増加（H17：H22）（Ｐ９）	・事業の目的に対する効果を発現しており、今後の事後評価及び改善措置の必要はない
2	青森県	一般国道7号	弘前バイパス	完了後5年	4/4	10.2	S56～H22	【完成】170.0	【完成】169.0	30,300	32,100	31,500	3.3	【資料４】 ・最大渋滞長が８割減少。旅行速度１１km/h向上（Ｐ６） ・死傷事故件数約４割減（Ｐ７） ・製造品出荷額は増加傾向で、Ｈ２５年度には過去最高を記録1,941億円（S50年の約5倍）（Ｐ８） ・輸送時間の短縮、走行性向上により、リンゴ産業の活性化を物流面から支援（販売数量、市場価格が増加傾向）（Ｐ９） ・さくらまつり期間中の渋滞が大幅に緩和（市内～弘前大鰐ＩＣ間30分以上短縮）（Ｐ１０） ・救急医療施設へのアクセス性向上の面から救急医療活動を支援（Ｐ１１） ・弘前市はバイパス沿線に用地地域を拡大し、さらには、沿線にＤＩＤ地区が拡大するなど計画的な市街地形成に寄与（Ｐ１２）	・事業の目的に対する効果を発現しており、今後の事後評価及び改善措置の必要はない
	青森県	一般国道7号	石川バイパス	完了後4年	4/4	4.6	H19～H23	【完成】30.0	【完成】30.0	20,300	22,100	18,200	6.8		・事業の目的に対する効果を発現しており、今後の事後評価及び改善措置の必要はない
3	岩手県	一般国道45号	中野バイパス	完了後5年	2/2	6.2	S61～H22	【完成】150.0	【完成】150.0	4,100	6,700	2,500	1.7	【資料５】 ・現道からバイパスへ交通量が約８割転換（Ｐ５） ・開通後、交通事故ゼロ件（Ｐ６） ・津波浸水区間を回避し迂回路として機能（Ｐ７） ・特産品（しいたけ）出荷額が増加傾向（105百万円　H22の約2倍）（Ｐ９） ・救急医療施設への搬送時間の短縮（約５分）（Ｐ１０）	・事業の目的に対する効果を概ね発現しているものの、今後のネットワークの完成等社会状況の変化に応じて、改めて事業評価を実施
4	宮城県	一般国道4号	富谷大和拡幅	完了後5年	4/4	13.3	S47～H22	【完成】260.0	【完成】260.0	36,900	36,200	35,600	3.7	【資料６】 ・旅行速度が15km/h上昇　（Ｐ３） ・死傷事故が２割（27件）減少。死亡事故は全線開通後未発生（Ｐ４） ・富谷町、大和町、大衡村では人口が大幅に増加（富谷町：Ｓ４５の約１０倍）（Ｐ５） ・製造品出荷額は事業化以降増加傾向。製造業従事者数約5倍（H25／S49）（Ｐ６） ・企業、居住者の増加により税収が増加。（H25：112億円　S50の約14倍）（Ｐ８）	・事業の目的に対する効果を発現しており、今後の事後評価及び改善措置の必要はない
5	宮城県	一般国道45号	唐桑道路	完了後5年	2/4	3.0	H14～H22	【完成】212.0【暫定】105.0	【暫定】105.0	11,000	11,100	7,800	2.7	【資料７】 ・交通量が唐桑道路へ転換し、現道の交通量が約６５百台減少（Ｐ４） ・死傷事故件数の減少。死亡事故の発生なし（Ｐ５） ・岩手県立大船渡病院への救急搬送時間が約５分短縮（Ｐ６） ・陸前高田市の製造品出荷額は震災前の約８割まで回復（H25･１３５億円）。長部地区の加工場面積が３割増（H21／H25）（Ｐ７） ・東日本大震災時に命の道として機能（Ｐ８）	・事業の目的に対する効果を概ね発現しているものの、今後のネットワークの完成等社会状況の変化に応じて、改めて事業評価を実施
6	山形県	一般国道13号	上山バイパス	完了後5年	2/４（一部4/4）	17.2	S54～H22	【完成】450.0【暫定】372.0	【暫定】372.0	22,800	23,000	24,700	3.7	【資料８】 ・交通量がバイパスへ転換し、現道の交通量が約６６百台減少（Ｐ５） ・川口交差点の渋滞（約１，２００m）が解消（Ｐ６） ・死傷事故件数の減少。道路利用者の約７割が安全性向上を実感（Ｐ８） ・山形大学付属病院への搬送時間が１４分短縮（Ｐ９） ・全線開通後、１３社が新たに進出し、雇用を創出。Ｈ２３年以降の企業立地による経済効果は約３００億円（Ｐ１０）	・事業の目的に対する効果を発現しており、今後の事後評価及び改善措置の必要はない
7	山形県	一般国道13号	新庄北道路	完了後5年	2/4	4.7	H12～H22	【完成】181.0【暫定】160.0	【暫定】160.0	15,500	15,300	5,700	2.7	【資料９】 ・交通量が新庄北道路へ転換し、現道の交通量が約４９百台減少（Ｐ５） ・五日町交差点の渋滞長が大幅に減少（８００m⇒１２０m）（Ｐ６） ・現道の交通事故件数が減少。新庄北道路では死傷事故ゼロ（Ｐ７） ・鮭川村から県立中央病院への救急搬送時間が約１５分短縮（Ｐ８） ・全線開通以降、新たに１０社が進出。Ｈ２３年以降の企業立地による経済効果は約１３０億円（Ｐ１０）	・事業の目的に対する効果を概ね発現しているものの、今後のネットワークの完成等社会状況の変化に応じて、改めて事業評価を実施

は重点審議事項